

2019年度
埼玉地区主題

主にある交わりを
深めよう

日本基督教団関東教区

埼玉地区通信

2019年12月8日

発行人

日本基督教団 関東教区 埼玉地区委員会

委員長 小林 眞

さいたま市岩槻区本町 4-3-15

http://www5b.biglobe.ne.jp/~saitama/

印刷所 (株)シャローム印刷

埼玉地区教会全体修養会

飯能教会 市川 浩

隔年開催の教会全体修養会が、二〇一九年八月二十六日〜二十七日、埼玉県嵐山町にある国立女性教育会館で開かれた。第四十四回となる。



楠本史郎先生

主題は「主にある交わりを深めよう〜生きた石として用いられ〜」として、講師に北陸学院大学学院長の楠本史郎先生をお招きした。長い間、二年毎に軽井沢を会場にして二泊三日の開催であったが、地区の多くの教会に参加していただきたいとの目的で、県内に会場を設定し一泊二日の開催とした。初日は三十三教会一二七人の参加者、二日目は二十九教会一〇四人



小林眞牧師

の参加者が与えられた。開会礼拝は、コリントの信徒への手紙Ⅱ 八章一〜七節をもとに、「教会の交わりのあり方」との題で、地区委員長・修養会委員長の小林眞牧師（岩槻）からみ言葉の取り継ぎを受けた。教会の交わりの一番良質なところは、惜しまず施すことからもたらされる。教会の中の交わりも、教会間の交わりも、自分自身を主に献げることが基礎となる。神の御心によって建てられた教会を信じることで、交わりを中心である。改めて、大切なことを学んだ。



白を受け入れ、教会の一員になること。「教会の信仰」が先にあって、そこに加えられた人々が教会を形作っていく。それが信仰の基本とのこと。さらに、コリントの信徒への手紙Ⅰ 十五章七節以下のパウロ

たね

秋から十二月まで多くの教会で

伝道集会を行います。昨年のもち、「埼玉新生教会の子どもたちの礼拝、音楽集会や寄席は伝道とは呼べない。カルトと同じ手法の人集めで、人間的な業に過ぎない」と「埼玉の夜明け」に断じられました。

やり玉に挙げられた当教会の子どもと家族でささげるプレイズ・ファミリー（PF）礼拝は二十年以上続けているものです。

わたしの経験ですが、CS廃止の報はあっても、賛美にあふれるCSの話は聞きません。昨今、流れる歌のテンポは速く、リズム感に溢れ、ダンスは必須条件かと。

歌って踊る手法はカルト教団が始めたものではないし、正体を隠すカルトのそれではなく、賛美そのものを福音として表現しているに過ぎません。

また、教会生活への入口は一つではありません。イベントをきっかけに教会に行ってもいいわけではありませんか。毎週の礼拝が伝道集会であって良いし、イエス・キリストの福音を伝えるすべての働きを伝道と呼びたいのです。（中村眞）



の告白から、十字架と復活の信仰は、最初の（最古のエルサレム）教会に始まり、パウロが伝え、世界中に広まった共通の信仰であることを確認した。

次に楠本先生の輪島教会での伝道の経験から、伝道は「自分の努力によって」では出来ないこと。そのような自我による傲慢を打ち砕かれることで、「自分が働く」のではなく、主が（自分を通して）働かれていることに伝道の根本があることを実感した、との

夕食の食事は、ビュッフェ形式で自由席。委員としては概ね好評を受けて良かった。

続いて分団の時を持った。委員会のミスで（委員の立場から書いているのだが）、分団分けの指示と会場の明示がなされず、特に宿泊棟で持たれた分団の参加者には多大な迷惑をおかけしたことを深くお詫びする。各分団は概ね、和気あいあいとした、活発な討議であったようである。

二日目の講演の演題は「生きた石として用いられ」。以下は、講演の要旨である。

小林 眞牧師が聖地旅行の際撮影した写真パネルと豪華版写真集（白川義員氏）を飾り、自由に見てもらった。これも洪く好評。



会場の様子

告白がなされた。伝道者は「教会の信仰」に生かされ、それを伝えることに召されている。教会の信仰により、教会に今も生きて働かれている主に向き合う恵みがある。教会を通して主がなさる御業を楽しみにしつつ、小さなことであつても、今ここでなすべき業に集中することが求められる。「私が」ではなく、「主が」教会を通してなされる救いの御業を見つめる。教会という一つの舟に乗り、安心して共にこの世の荒海を渡っていくこう、と話され、しみじみ心に沁みだ。

①「Ave verum Corpus」を四部合唱してみよう（音楽室）
 宗教歌曲のソプラノ歌手として活躍なさっている民秋理さん（八千代台教会／信徒）から指導を受け、有志五十名が混声四部合唱に挑んだ。
 合唱練習会場の熱気にビツクリした。
 ②ハーブティーを楽しむカフェ（調理室）
 数種類のハーブティーと茶菓を用意し、自由な語らいの場を提供した。
 たいそう好評であつた。
 ③聖地の写真パネルを見よう（試食室）

ペトロの手紙Ⅰ 二章四節（六節を見ると、十字架と復活の主キリストが教会の土台の石であること、捨てられた石が生きた親石となる不思議さ、私たち一人ひとりが教会を形作る石であること、それぞれ形も大きさも違う石を、名石工職人の主が組み上げていってくださることが示される。）
 さて、教会は主を礼拝する群れである。

全体会は、質疑応答、四部合唱の披露、教会紹介、アーモンドの会からのアピールが行われた。
 閉会礼拝では、申命記十章十二節（十六節を基に、「幸いを得る」との説教題で、栗原清牧師（武蔵豊岡）からみ言葉の取り継ぎを受けた。
 この時期としては涼しく、天候にも恵まれ、事故もなく恵まれた修養会であつた。
 感謝。（修養会準備委員）

礼拝こそが教会形成（そこに一つの小さな石として私たちが置かれている）、礼拝こそが伝道（新しい石が教会に加えられることを喜ぶ）、礼拝こそが牧会（石は相互に支え合つてこそ石垣となる）で成熟した「私の信仰」は個人主義ではなく、必ず教会の礼拝生活に結びついている。教会の親石でいます主キリストの上に据えられるとき、一人ひとりが生きた石となり、なくてはならない大切な存在とされ、用いていただけ。

「教会の信仰」によって育てられて「私の信仰」が成熟していく神秘を学んだ。

中学生・KKS・ 青年キャンプ報告

東所沢教会 指方 周平

八月十三日(火)～十五日(木)、埼玉地区十四教会より十四名(中学生十一名、高校生十三名、青年九名、引率および教育委員十一名)が参加し、長野県軽井沢町の立教学院みすず山荘を会場に、中学・KKS・青年キャンプが開催されました。



ドッチビー大会
(フリスビーで行うドッジボール)

毎年天候が気になるキャンプですが、今年も二日目から雨



開会礼拝の様子

の予報だったため、臨機応変に予定を入れ替え、晴れている間に、広い芝生の上で、ドッチビー大会を楽みました。

この数年、キャンプではグループに分かれて、主題となる聖書箇所を読み込み、気づいたことを分かち合い、劇化して全体に発表するワークショップを行っておりますが、今回のテーマは創世記より「アブラハム物語・神に従った人」でした。



アブラハム物語を劇にして、発表しました

「信仰の父」と称されるアブラハムが人生の土台としたものの、目標としたものは何だったのか。中学生は「アブラハムの召命」、高校生は「永遠の契約」、青年は「イサク誕生と奉獻」の聖書箇所を分担してアブラハムの気持ちを思い巡らせつつ、主なる神さまに従って生きたアブラハムの生涯を劇にしま

した。

今回はテーマとなった聖書範囲が広く、焦点を絞り込めなかったという反省も残りでしたが、それでも仲間と一緒に、神さまからの手紙である聖書と向き合った事実は、人生の基礎工事の時期にある若い世代にとって大切な体験になったのではないかと思います。

二日目の夜には、ろうそくの灯を静かに囲んで、ひとりひとりが抱え続けている悩みや思いに耳を傾け、祈りで包んでいくキャンドルライトサービスの時を守りました。



中学生、高校生、青年に分かれてのワークショップの様子 (写真は高校生のグループ)

今回のキャンプは現地で不測の制限が重なり、大幅な予定変更の連続で参加者たちには戸惑いと心配をかけてしまいました。しかし、そんな中でも、参加者たちが喜びを見出しな



自由時間の様子

がら、楽しく過ごしている様子を眺め、普段とは異なる場所で礼拝を守っている仲間たちが、主イエスの名のもとで、ひとつに集められたこのキャンプそのものが、貴重な機会であり、埼玉地区の宝であることを改めて思い巡らせました。



レクリエーションの時間

帰りのバスが大宮駅に近づいた頃にはクタクタになっていました。虹が掛かっている

ことを教えてもらい、曇空に鮮やかに現れていた虹をバスの車内から眺めつつ「きつと神が備えてくださる」とのアブラハムの言葉を思い起こしておりました。

今回のキャンプも、最初から最後まで神さまが共にいて、備えて、お導きくださったのだと、思われました。

なお九月二十九日(日)午後、飯能教会で開催予定だった「秋のフェスタ」は、当日朝、飯能市内で発生した発砲傷害事件の犯人が銃を持ったまま逃走していたことから、参加者の安全を考え、残念ながら中止としました。



甘楽 SA で昼食 (行き)

来年度のキャンプは二〇二〇年八月十二日(水)～十四日(金)、長野県佐久市の山荘あらふねを会場に開催します。ぜひ、今から、ご予約ください。(教育委員会)

新任教師ご紹介

十就任にあたり

東松山教会 崔長壽チョン ジョンス



二〇一二年四月、日本宣教師として、大韓イエス教長老

会(PCK)から派遣されまして、最初の一年間は、仙台を中心にして三・一一東日本大震災の被災地で活動し、二〇一三年四月から六年間、秋田県の秋南教会で協力宣教師として仕えました。そして、今年一〇月一日に東松山教会に赴任しました。宣教師派遣初期から、心にとめて御言葉は、使徒言行録の一章八節の「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」です。この言葉のとおり、先生方々と共に、埼玉地区にも主の証人となることを喜んでいきます。よろしくお願いたします。



※平和を求める八・一五

集会の講演を聞いて

所沢みくに教会 稲正樹

今年の講演は、永山茂樹氏(東海大学法学部教授)の「安倍改憲は国家と社会をどう変えるか」「四項目改憲」の危険性」というものだった。講演は、安倍改憲四項目の九条改憲、緊急事態条項の創設、教育条件整備改憲、選挙制度・地方制度改憲について解説し、九条改憲を軸にした「三プラス一」改憲であると指摘した。そして、安倍改憲は何をどう変えるのかについて、国家の軍事化、社会の軍事化、権威主義との関係を論じた。

最後に、市民と野党の連合は有効であり、立憲四野党一合派と市民連合による「だれでもが自分らしく暮らせる明日へ」の十三項目の学習を進展させることの大切さを強調した。とてもわかりやすい講演だった。(当日の講演の全体は、「埼玉の夜明け」五十巻二号掲載の記事をご参照ください。)

(社会委員会)

※第二十五回アーモンドの会

埼玉新生教会 奥田幸平

九月二十三日(月・祝)、第二十五回アーモンドの会が、埼玉和光教会を会場に開催されました。

開会礼拝は、澁谷弘佑牧師(毛呂)が「主のもとに住む」との説教でコリントの信徒への手紙Ⅱ五章一節(十節)から、ご自分の体験を交えて語られました。



主題講演は、精神科医・功力弘氏(甲府教会会員、功刀クリニック名誉院長)により「統合失調症診療歴より」イエスが病んでいる人たちと出会ったときの物語から学ばれた。

続いて、当事者の「心の泉会」小林良雄さんの証しがあり、午後からの分団では、参加者全員がそれぞれの立場で発題から感じたことなどを分かち合いました。

二十五回目を迎えたアーモンドの会は「障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会」という少し長い名称の懇談会です。四半世紀続いたこの会は、様々な障がいを持つ方との共生を教会はどのような配慮をもって接してきたかを学び、考え、語り合うことを通して、いろいろな気付きを与えられてきました。

今回は統合失調症について、医療専門家の目線、当事者の目線、関わる方々(家族として)、教会の兄弟姉妹として)の目線からの話し合いが行われました。

印象に残るのは功力氏の「診療歴」から統合失調症の病状悪化と睡眠の関係についての知見をお話いただき、「病状の悪化は深睡眠の減少が関連し、再発防止には睡眠障害を自覚するよう指導することが大切」との話。「健全な睡眠、健全な意識と健全な生活習慣がリンクしている」という言葉は他の障がいでも疾患でも共通することのように思いました。分団の話し合いでは「当事者の小林さんの話に力づけられた」との感想をお話しされる方が多くいました。また「自分の障がいのことをここだから



話せるけど、安心して話せる教会を探して転会した」「障がいのある方にどう接したらよいか悩むことがある」「統合失調症の方とのトラブルの対処法なども聞きたかった」など、自由な意見交換が活発に行われました。最後に分団報告と閉会祈禱をもって終了しました。

参加者は一〇四名(二十三教会、三他教会、一団体 席上献金 六四、五二五円)

(アーモンドの会)

※牧師夫人・女性教職の集い

熊谷教会 大坪 園子

二〇一九年十月一日(火)、和戸教会にて開催。二十二名出席。

開会礼拝は、温井節子牧師(秩父)によって「私たちは神の作品」(エフェソ二章一節〜十節)と題して説教をいただき、司式は舟生まゆみさん(加須)、奏楽は竹内成子牧師(深谷西島)。



その後、森田愛香さん(愛泉)の「福祉とわたし」と題して講演。

「福祉とは伝道。福祉とは、神を証しすること。神をほめたたえる人となる。どんなに苦難があっても、イエスさまだけは慕わしい。主をたたえ、互いに職員が愛し仕え合っているならば、周りはイエスさまの弟子だということを知って下さる。子どもには怒らない。本当の母を模倣して、子どもを受入れ、肯定してあげる。否定的な言葉を使わない。神と人に仕えることを、愛をもって積み重ねてきた」経験を踏まえて、貴い働きのご紹介。

その後、写真撮影。三羽敦子牧師(和戸)がご用意の美味し

いお食事・お菓子、自己紹介タイム。続けて「デボーションとわたし」と題して指方敦子さん(東所沢)の証し。「示された御言葉を朝晩にじっくり読むことで、どのようなことが起きて心落ち着くこと、聖書に書かれた御言葉は真実で、神が助け出して下さることを、実体験をふまえてお証し下さった。続けて、正田勝子引退教師(本庄)が、デボーション(静聴・献身・御言葉に聴いて従う)の時間を導いて下さった。「主は今生きておられる」を賛美し、コリントI 十二章十二〜三十一節を輪読し、内容観察、静聴(約束・命令・慰め励まし・禁止・罪)した後、各グループ毎で与えられた適用を分かち合い祈り合った。



最後に、山野裕子牧師(久喜復活)の閉会祈祷で終了した。

※「CSせいと大会」

本庄教会 正田義也

十月十四日、国営武蔵丘陵森林公園にて行われ、十四教会七十六名が参加しました。台風十九号の直後でしたが、公園側の迅速な復旧作業により開催に至りました。

開催時刻の十時には若干の小雨が降りましたが、子どもたちは元氣一杯、運動広場への道りを蜘蛛の巣もお構いなしに駆けて行きました。広場に着くと、ブルーシートを敷き、ま



次々と広場に集まってきました

礼拝は、最上光宏牧師(所沢みくに)のお話し、渋谷実季牧師(毛呂)の奏楽で始まりました。

最上牧師は、ヨナ書から「あなたはいかりはただしいか」と題して、紙芝居や手作りの絵

で、ヨナがタルシシュに逃げる場面、魚に吞まれ大魚の腹で祈る場面等、ヨナ書の物語を子どもたちに分かり易く、また楽しく伝えて下さいました。先生が、枝葉の付いたビニール傘製の「とうごまの木」をパッと開くと、歓声がわきました。



説教される最上牧師

一夜で枯れたとうごまを惜しむヨナに神様がニネベ行きを示される箇所、「自分だけ良ければいいとの考えもありますが、神様は、どんな人でも、世界中のみんなを愛しているのです。神様を敬い、悪い事をやめれば、みんな、神様は救ってくださいます。世界の子どもはみんなお友達です。」と優しく語り掛ける声に心に響きました。

礼拝後は、十四教会がそれぞれ、教会紹介と毎年恒例のクイズ出題をしました。「今年の行田市の田んぼアートの絵柄は？」(答え…ラグビー



落葉を集めてベッドを作りました

日本代表)から「私の好きな食べ物は何？」(答え…豆乳)という難題まで、楽しい交流の時間でした。

その後、屋根の下で楽しい昼食の時。食後は、フリスビーやドッジボール等、自由時間を持ちました。広場の落葉を集めてベッドを作って秋を満喫しました。

今年もCSの子どもたちを中心とした幅広い世代の方が神様の愛のもとで集い、楽しく交流をもつて大変豊かな三時間半を主の御守りと御導きの中で過ごしましたが、今回の台風十九号で被災された方々のことを覚え、主の慰めと平安があるように祈り、午後雨の予報のため、少し早めの解散となりました。

開会礼拝で捧げられた献金は、今年度の教育委員会の活動のために用いさせていただきます。(教育委員会)

※伝道と賛美の集い

七里教会 小林 則義

「日の昇るところから日の沈むところまで、主の御名が賛美されるように」

(詩編百十三編三節)

今年の伝道委員会の「伝道と賛美の集い」は、十月二十六日(日)秋の七里教会チャペルコンサートとして全盲の福音歌手・大和田広美さんをゲストとしてお招きしました。



まず感謝であったのは、二週間前の台風や前日の豪雨がウソのように、当日は穏やかな晴

天を与えられたということですが。台風や豪雨で被災された方々を覚えつつも、毎週の礼拝出席は十数名である会堂が六十名を越す来会者で埋まり、スリッパが足りなくなるといううれしい悲鳴がありました。地域でお配りした手紙とともに発送したチラシの一枚一枚を神様が生かしてくださったことを実感しています。



ゲストの大和田さんの歌声は、素晴らしいピアノ演奏とともに、美しく温かく聴く私たちの心に届くものでした。曲によつては会場の私たちに手拍子を促したり、互いに肩をたたき合う動作をいれたり・・・と、

最終会場が一体となつて、明るいムードが醸し出されています。「美しい歌声であり、癒しの歌声である」それが大和田さんの魅力であると思えます。「全盲で人に助けてもらわないと何もできない自分に生きる価値があるのか」とご自分からこぞ得られたものが、その根底にあると感じました。

※教会音楽講習会

『讚美歌21』再発見②

大宮教会 勝野昌子

今年度二回目の講習会が十一月二十六日(土)大宮教会で



行われました。一回目に引き続き「もつと使おう!もつと歌おう!」と題して再び日本聖書神学校教授、荒瀬牧彦先生にお話ししていただきました。

まず初めに前回の内容を振り返り、歌集全般の危機と意義について三つの視点①教会の信仰・神学②賛美歌の歴史の集積③礼拝の中で用いる歌集『礼拝書』としての賛美歌集等の再確認を致しました。

次に四つのタイトルが示されました。

①礼拝の中の賛美歌

②『讚美歌21』が開いてくれた現代の賛美歌への扉

③礼拝の中で働く賛美歌

④自分達のいる場所から賛美歌を生み出していこう、です。

その内容は①賛美と感謝、懺悔を歌い、み言葉、祈り、証しや呼びかけを歌う。賛美歌は礼拝の中で何をしているのか、との問いかけがあった。②今私たちが使っている歌集は賛美歌の歴史的地層の上に立つており、聖書の時代から様々な時を経て、現代に至るまで賛美歌が生み出されてきている。ここで

は十九世紀英国における会衆賛美歌、二十世紀英語圏の国々で数多くの賛美歌が生まれ、それらが世界各地に広がり新しい傾向の賛美歌が次々と生まれる契機となった。③『讚美歌21』をもつと活かす必要がある。詩編を歌い、世界各国の賛美歌が紹介された。④聖書個所に即した歌等々、時代の求めに応じた神の御業を見出し、歌を生み出していこう、そして教会のテーマを賛美歌として創る例として曲の紹介がなされた。

この講習会ではテーマに即した多くの賛美歌を思う存分歌うことができました。歌う時には歌詞をよく味わい、信仰や光景、思いを心に描き、又他の人と声を合わせて歌う事などのご指導がありました。

今回は特別に鍵盤楽器にギター伴奏も加わり賛美歌の持つ豊かな奥深さを新たに味わった恵み溢れる一時となりました。先生、伴奏者の方々に感謝致します。また、天候が案じられる中、十一教会三十三名の参加者が与えられました。

(教会音楽委員会)

特集

十大きな課題…、 より大きな希望抱きつつ

シャロンのばら教会

鈴木 証一

一九九二年五月三十一日、シャロンのばら教会は、春日部教会の伝道所として創立されました。あゆみ幼稚園(越谷市)と、あゆみ第二幼稚園(幸手市)をお借りして、二箇所での教会形成をしていくこと、それぞれの場所で毎日曜日の同じ時間に大人と子どもの合同礼拝をすることを、創立時より大切にしてきました。また、お借りしている幼稚園との関わりを深め、園児たちとご家族を礼拝にお招きする他、互いに行事に参加することもあります。二〇一〇年には、教会として設立され、教会堂を建てること大きな目標になりました。

方針が伝えられました。そのような中、教会では協議を重ね、今年度から六年間を二つに分けた三年計画×二を造って、新しい歩みの準備を始めることにしました。



状況が変わっても、「武里せんげん台地域と幸手高野台地域の伝道の責任を負う」という教会創立時の祈りに変わりはありません。大きな課題がありますが、より大きな希望を持って取り組んでいます。

今・そして課題と展望

北本教会 阿部 洋治

近年、教会は、二十一年間牧会された石川栄一先生辞任(二〇一六年三月)及び後任牧師のことで教会を離れる教員

が続出、加えて約半年間無牧等々の試練の時を過ごしました。しかし、感謝すべきことに、昨年は、礼拝出席者数が回復し、十二月には二人の受洗者が与えられ、高齢者の多い教会ではありますが、活気を取り戻しつつあります。

因みに昨年度は、現任陪餐員二十五名のところ礼拝出席者は平均二十二名、祈禱会は八名。教会学校は、ミッションスクールに通う小学生一人。教師は三名、牧師二名(隠退教師を含む)、他に牧師夫人の計六名



クリスマス等などの行事に

は、教会員のお孫さんたちも加わって賑やかになります。この教会の魅力は、高齢者たちが意欲的に奉仕活動に励んでいる事です。例えば九十歳になった会員は、退職後原典に基づき聖書を読んで研鑽を積んできたことを土台に、聖書研究祈禱会

を各週で担当しています。八十四歳の会員は、無牧時代には、教会資料の整理、教会会計担当、また伝道委員として求道者名簿管理、礼拝案内発送等々、加えて毎週土曜日の会堂掃除の奉仕、また、三人の奏楽者の二人は、八十歳を超えていますが、準備を怠らずに祈りに満ちた奏楽をしています。

新年度は「天国は、パン種のようなものである」との御言葉に励まされて出発しました。

十時代の変化の中での 教会の課題と展望

西川口教会 金田佐久子

二〇二〇年は東京オリンピック・パラリンピックの開催の年であるが、西川口教会にとっては創立七十周年の記念の年にあたる。先の東京オリンピックが開催された一九六四年の十二月に教会は、現在地に現会堂を献堂した。今年には西川口の地での伝道五十五周年となる。

今までの七十年の主の守りと導きを感じ、記念すると共に、これからの宣教をどのように進めていくのか、祈り求めている。創立八十周年、百周年、次の七十年後(創立二四〇周年)

を迎えるとき、この川口は、首都圏は、この国は、この世界は、どのようになっているのか。教会は神のもの。キリストの教会は、時代がどのように移り変わっても、変わらない福音を告げ知らせる。

川口市役所ホームページによれば、今年の市の人口は約六十万人。外国人人口割合は約六%。

最近改めて心を動かされた御言葉は「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」(ローマ十二章十五節)。



老若男女、国籍も問わず、だれでも喜ぶ人・泣く人と共に教会は歩む。

今、新会堂建築のため祈りを積んでいる。これからキリストに出会うであろう人々に仕えていけるように、そのために新会堂が与えられるようにと祈っている。

地区委員会報告

二〇一九年度第三回委員会

日時 七月九日(火)

会場 大宮教会

出席 十人

主な報告

●地区内の教会・教師の報告

◎辞任関係

・行田 (主) 清水与志雄(正)

・聖学院 (主) 東野尚志(正)

◎就任関係

・越生 (代) 山岡 創(正)

・行田 (主) 西川晃充(正)

・越谷 (担) 鈴木恵子(正)

◎就任式執行予定

・行田 (主) 西川晃充(正)

◎逝去者

・シャロンのぼら

(担) 鈴木一義(正)

(隠) 岡本不二夫(正)

◎廃止(第六十九回教区総会)

・北川辺伝道所

・国際愛伝道所

◎会計報告

五月十一日から七月八日分

各委員会・各部報告

●主な協議事項

一・地区総会付託議案に関する

件

①議案第八号 地区会計監査

選任の件

藍田修牧師(鳩山伝)、結城恭

子姉(大宮)を選任。可決。

②議案第十号 次回地区総会

会場及び日程の件

日時:二〇二〇年三月二十日

(金) 午前九時三十分〜午後

四時

会場:埼玉和光教会 可決。

二・地区委員会主催集会等に関

する件

(1)新年合同礼拝に関する件

日時:二〇二〇年一月十三日

(月) 午前十時半より

会場:上尾合同教会

(2)地区総合協議会

日時:二〇二〇年二月十二日

(水) 午後七時より

会場:埼玉新生教会

(3)伝道協力協議会に関する件

日時、会場、報告者等につい

ては、承認を待ち決定する。

以上、可決。

三・教団伝道資金本年度運用及

び次年度申請に関する件

・鳩山伝道所 H P作成依頼

申請額五万円

・次年度申請内容について、三

役員に一任する。

以上、可決。

四・諸申請に関する件

・伝道資金申請

・秩父教会 四七、八〇〇円

以上、可決。

五・教師委員復帰に関する件

舟生康雄牧師の教師委員会

復帰について。地区は三区の意

向を尊重し、二〇一九年度を二

期目の二年目と数える。

以上、可決。

●閉会祈祷 大坪直史

二〇一九年度第四回委員会

日時 九月三日(火)

会場 大宮教会

出席 十人

●地区内の教会・教師の報告

◎辞任関係

・埼玉中国語(主) 林美音(宣)

・本庄旭(兼) 柳瀬 聡(正)

◎就任関係

・本庄旭(代) 大坪直史(正)

◎FAX番号変更

・「埼玉新生教会」と「しんせ

い幼稚園」新FAX番号

〇四八―八一六―三八六七

◎問安報告

・一教会五伝道所を問安。

◎会計報告

七月十日から九月二日分

各委員会・各部報告

●主な協議事項

一・地区委員会主催集会等に関

する件

①地区伝道協力協議会に関す

る件

日時:二〇一九年十月二十日

(日) 午後三時より

会場:上尾合同教会

テーマ:「埼玉地区における

伝道協力のあり方」実際面

と会計面」

発題者:

小林真牧師(岩槻教会)、

栗原清牧師(武蔵豊岡教会)、

町田さとみ教師(初雁教会)

以上、可決。

②新年合同礼拝に関する件

説教者:井ノ川勝牧師(金沢教

会)

以上、可決。

二・教団伝道資金本年度運用及

び次年度申請に関する件

今年度は地区内教会・伝道

所のH P作成支援その他に充

てる。次年度は地区内教会の会

堂建築支援、小規模教会支援に

充てる。以上、可決。

三・二〇二〇年度教区総会に向

けて設営委員会を設置する

件

二〇二〇年度教区総会に向

けて、今後の地区委員会で金刺

裕美教区主事と小池正造教区

書記の陪席をお願いして説明

をいただくと共に、設営委員会

を設置する。

●閉会祈祷 指方周平

以上、可決。

編集後記

年々厳しさが増してくるよ

うな猛暑と天候不順の中で、今

夏も隔年ごとの地区主催の教

会全体修養会、そして毎年、

様々な工夫をして準備されて

いる中学生・KKS・青年

キャンプも無事開催すること

ができ、その報告をお寄せくだ

さいました。また、各委員会や

部会が年間行事に合わせて計

画された集会の様子を可能な

限り地区全体の活動として皆

様にお知らせしたく寄稿して

いただきました。

東松山教会は十月、日本基督

教団との宣教協約を締結して

いる韓国長老教会の大韓イエ

ス教長老会から崔長壽宣教師

を主任担任教師として迎えら

れ、教師のご紹介としてご挨拶

をいただきました。



(茨木公子)